

令和 6 年 1 2 月 1 3 日

内閣府 規制改革推進会議

地域産業活性化ワーキング・グループ 御中

一般社団法人日本旅館協会
会 長 桑野 和泉

地方における交通事情について

この度は、地域における宿泊施設が直面する状況・課題につきまして書面を提出させていただく機会をいただき感謝申し上げます。

さて、昨今、地域における移動の不足が課題として取り上げられており、政府におかれましても、日本版ライドシェア、公共ライドシェア等交通空白解消のための施策について、取り組まれております。

こうした中、一般社団法人日本旅館協会におきましては、地域の交通事情について把握するため、加盟会員を対象にアンケート調査を実施いたしました。地域により実情はさまざまに一概には網羅することはできませんが、交通事情に課題を持つ地域の現状をお伝えさせていただきたく、ご検討の一助になれば幸甚に存じます。

アンケート結果によれば、地域においては、依然として交通事情の改善が見られず、国内外からの旅行者の移動、とりわけ周遊観光にも支障が生じている実情が見受けられます。

政府の掲げる 2030 年の訪日外客数 6,000 万人達成のためには、地方部で相当数のインバウンド受入れが必須と思われ、地方の交通事情の改善は喫緊の課題であるといえます。政府はじめご関係の皆様におかれましては、ライドシェア施策の推進等により、地方の不足等の問題の早急な解消を図っていただきますようよろしくお願い申し上げます。

(別添)

- ・各地域の交通状況に関するアンケート調査結果

一般社団法人日本旅館協会 各地域の交通状況に関するアンケート調査 概要報告

<目的>

令和5年11月、日本旅館協会では会員施設における交通状況についてのアンケート調査を行った。令和6年4月に日本版ライドシェア・公共ライドシェアが解禁され、各地域の状況の変化等について知るために、今年、2回目のアンケート調査を実施した。

<調査期間> 令和6年11月15日（金）～11月18日（月）までの報告分を集計

<調査方法> インターネット上で、協会の宿泊施設を対象に実施

<回答数> 今回（令和6年）調査では、会員施設111軒から回答が集まった。

【アンケート調査にかかる設問と回答結果の概要】

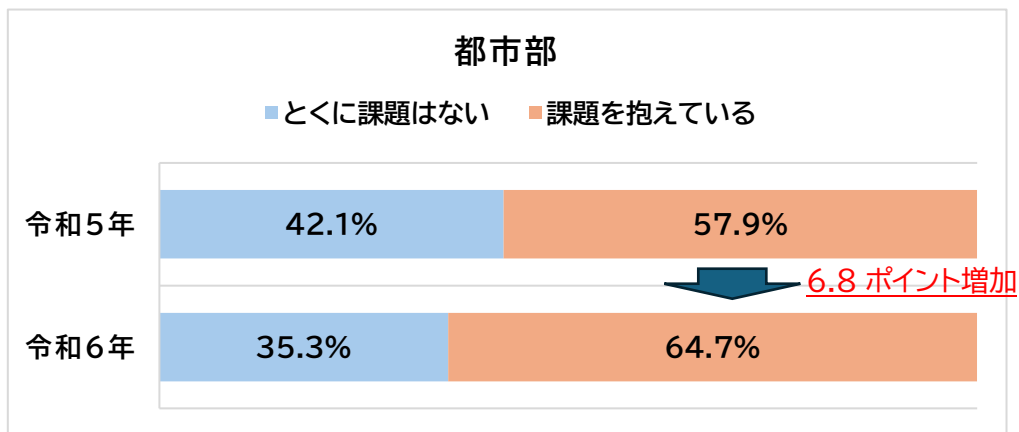
Q1. 貴施設所在の地域について、当てはまるものを選択してください。

	令和5年	令和6年
都市部に所在している	19軒 (22.9%)	17軒 (15.3%)
都市部以外（温泉地等）に所在している	64軒 (77.1%)	94軒 (84.7%)

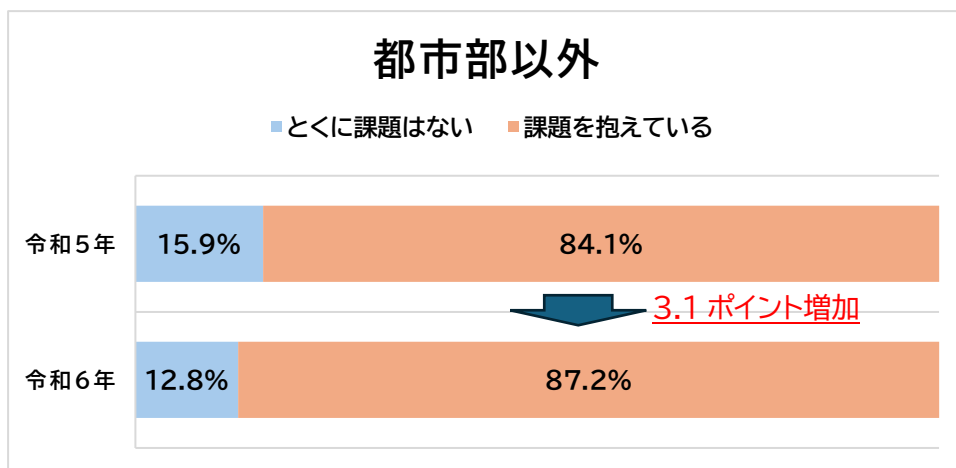
Q2. 貴施設所在の地域では、交通手段に関する課題を抱えていますか？

	令和5年	令和6年
課題を抱えている	65軒 (78.3%)	93軒 (83.8%)
とくに課題はない	18軒 (21.7%)	18軒 (16.2%)

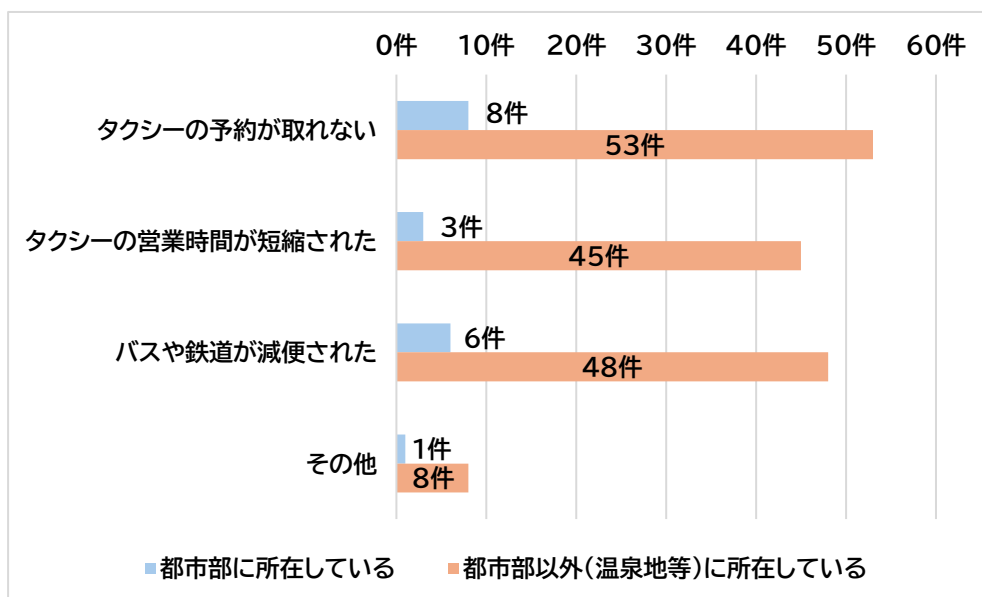
■Q1で「都市部に所在している」と答えた施設のQ2の回答の割合は以下のとおりとなった。なお、同様の質問をした昨年度調査の結果と比較すると、「課題を抱えている」と回答した施設の割合は64.7%となり、昨年より6.8ポイント増加した。



■Q1で「都市部以外に所在している」と答えた施設のQ2の回答の割合は以下のとおりとなった。
 なお、同様の質問をした昨年度調査の結果と比較すると、「課題を抱えている」と回答した施設の割合は、3.1ポイント増加し、その割合は9割近い87.2%となった。



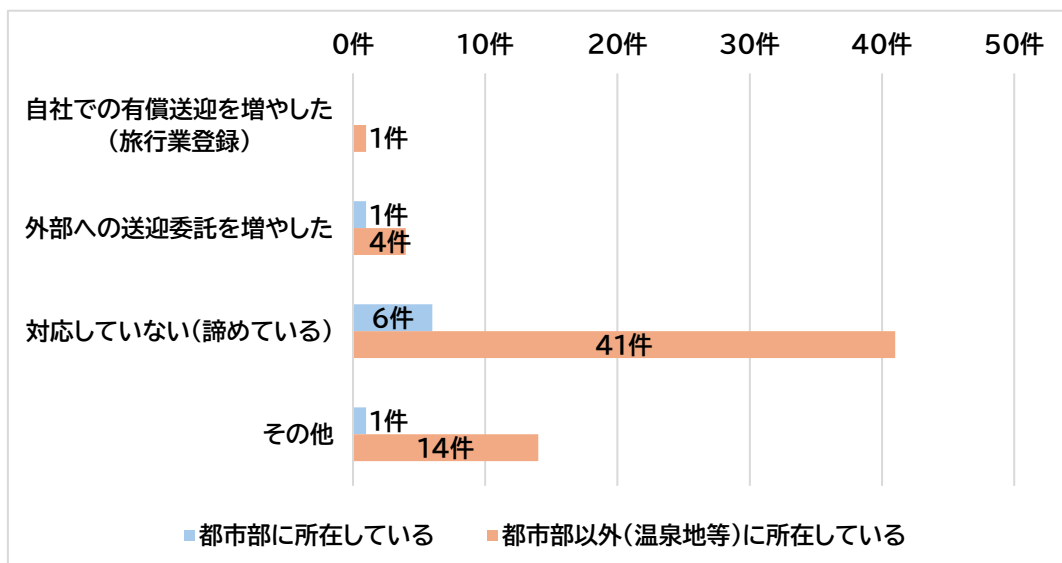
Q3. Q2で「課題を抱えている」を選択した場合、具体的な内容について教えてください。



■その他の主な内容

- ・ 駅から徒歩30分かかるが、温泉組合による共同運営バスなども無い
- ・ 2次交通網が弱い。特に鉄道を使用するインバウンドのお客様の行動範囲が広がらない。
 人手不足により今後益々悪化する恐れが高い。
- ・ タクシーの台数が半減した。
- ・ 営業所が遠方にあり到着までに20分ほど時間がかかる
- ・ 駅からの公共交通機関がない
- ・ 時期によってバスが満員で乗ることが出来ない
- ・ 時期やタイミングによってはタクシーの予約が取れないことがある
- ・ 都市部からのアクセスが脆弱

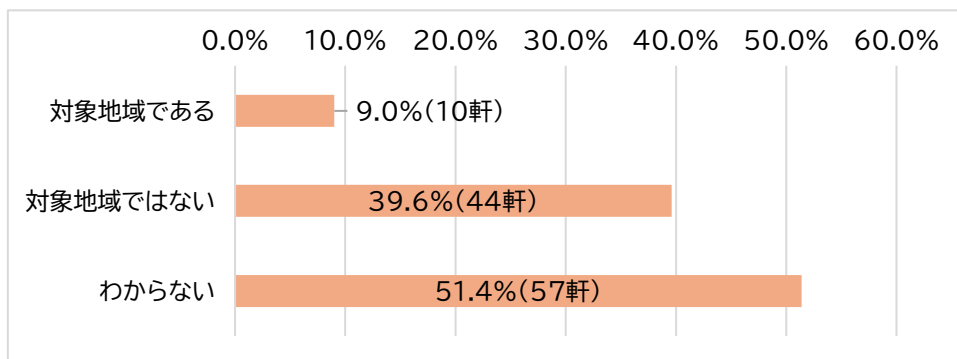
Q4. Q2で「課題を抱えている」と答えた場合、現在の対応方法について当てはまるものを選択してください。



■その他の主な内容

- ・ 空港への送迎を継続して実施している
- ・ 事前予約で対応している
- ・ 他市町のタクシー会社等を探す
- ・ タクシーはお客様に手配を依頼している
- ・ レンタカーへ誘導している
- ・ 自家用車の利用を勧めている
- ・ 組合での共同運営送迎バスの仕組みを作ろうと動いたが、各施設の客層が違うなどの理由から諦めざるを得なかった
- ・ 地域として公共交通機関に働きかけを行っている
- ・ 諦めているわけではないが現行では対応し難い
- ・ 自治体と協議継続中

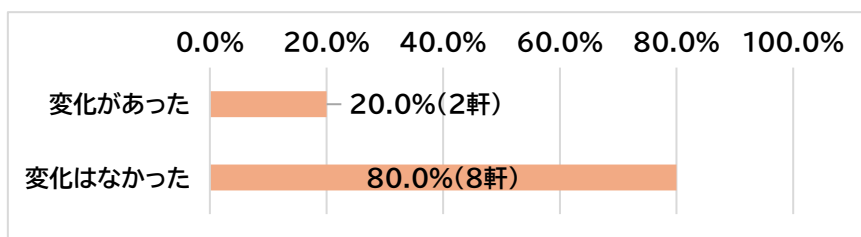
Q5. 貴施設が所在する場所は、日本版ライドシェアまたは公共ライドシェアの対象地域ですか。
あてはまるものを選択してください。



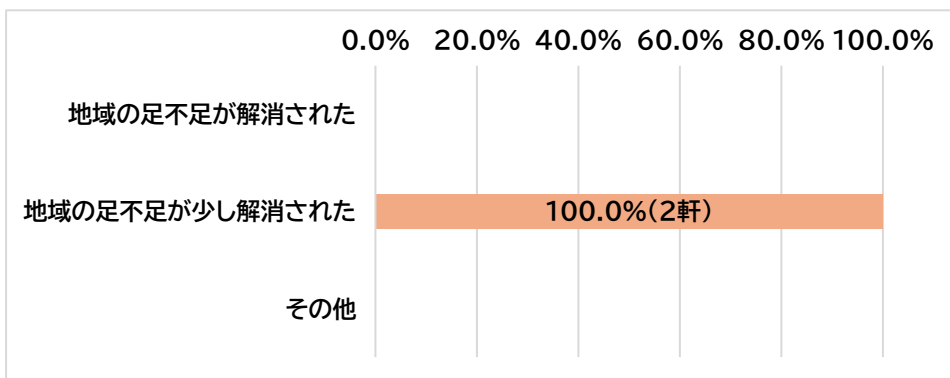
Q6. Q5 で、「対象地域である」を選択した方にお伺いします。

ライドシェアが解禁されてから、地域の交通事情に変化はありましたか。

あてはまるものを選択してください。



Q7. Q6 で「変化があった」を選択した方にお伺いします。どのような変化がありましたか。



Q8. 地域の交通事情について、お困りのことやご意見などあればご記入ください。

【地域の交通事情について】

1. 二次交通の整備が全くすすまない（空港からの路線バスなど）
2. 観光型の周遊バスに地元の路線バスも組み込まれてしまい、観光客、地元住民どちらにとっても中途半端な運営となってしまっている。
3. 21時すぎのタクシーが極端に少なくなっており、予約もとれない状況にて、夜の町が静か。現ライドシェア制度では対応は不可能。
4. インバウンドが増えてタクシーの要望が多いが全然手配できない
5. お客様は、バスの本数が少ない上に、電車とバスを乗り継いで当温泉地に来られるので非常に不便さを感じています。
6. コロナ以降特にバスの減便により交通手段が厳しくなっている。
7. タクシーが2台しかないのでお客様が困っていても助けられない。最寄りの駅に長い階段があるので、年配の方が来られない。バスが少ないのでほとんど使えない。
8. タクシーの時間が限られて、呼んでもなかなか来ない。
9. 電車など公共交通機関利用のお客様にとっては各観光施設への交通手段が限られており不便である。
10. 公共のバス、鉄道などが減便または廃止。地域住民の交通と被っているため繁忙期などは利用がしにくい。自家用車、レンタカーは事故が増えて来ている。大型のバスが街中の狭い道路にはいつてきて大変危険である。駐車場は十分にあるとは言えない。
11. 列車（JR）やバスの運行も非常にすくない。また、観光地へ行く手段がタクシーしかないが、台数が少ないため予約が取れない事もしばしばあり、夏にはレンタサイクルの利用を進めている。冬はタクシーの予約が取れない時には観光地を訪れることを諦めて帰られる。とても残念なことと思います。
12. 旅館までの道がよくないため、タクシーやバスのドライバーが嫌がる
13. 朝のチェックアウト時、婚礼などの大人数宴会終了後のタクシー手配で予約が取りにくくなっている
14. 顧客の主要な移動手段であるJRが災害時に簡単に運休することが問題。
15. バスが減便されお客様、社員の通勤にも支障をきたしている。タクシーも数台しかなく13施設もある温泉地には予約も出来ず困っている。
16. 公共交通機関が乏しく関東圏から新幹線を利用してお越しになるお客様が困っている。最寄り駅からのシャトルバスも出ているが便数が少なく週末等は混雑し、時として乗れずに困り、やむなくタクシー手配を依頼受けるがタクシー自体が不足しているため予約を受けてもらえない。地元のバス会社も人手不足で困っているとよく聞く。
17. 今までのところ、JRの最寄り駅まで、高速バスの最寄りバス停まで自社所有のハイエースでの送迎はかろうじて対応はしているものの、運転手確保の困難さも年々厳しくなっており、客足にも影響してくることは必至である。

18. ドライバー（タクシー・バス共に）の人手不足が顕著。拡大する FIT マーケットへの対応が追いついていない。
19. ドライバーの高齢化、中心街と比較しての賑わいの低下。
20. バスの運転手不足による減便、レンタカー不足や対応人材不足、地域のタクシーは瀕死状態

【周遊観光・インバウンドへの影響】

21. 世界遺産に行くための二次交通が圧倒的に足りておらず、お客様に不便をかけております。周遊バスを活用し最低 1 時間に 1 本は世界遺産にご案内できるようにしないとお客様より選択されなくなってしまふ懸念が大きくなります。
22. 二次交通が脆弱であるため、主要観光エリア以外の観光地へ行くには、かなりの時間と労力が必要となる。素晴らしい自然や風土が残る地域があるため交通の課題が解決すれば、滞在日数は増えると予想され、満足度は高まりひいてはエリア集客力は向上すると予想される。
23. インバウンドのお客様の主要な足である鉄道が減便されたり、特急運行エリアが縮小されたりしている。コロナ禍を経て不便になっている。近隣の観光地間を結ぶ 2 次交通が弱い。バスやタクシーの運転手の高齢化、減少が進んでいる。ライドシェア解禁やスムーズにマッチングをできるデジタルツールが必要だと考える
24. お客様の 2 次交通が課題です。車がないと観光地への移動が大変です。新幹線の駅が最寄り駅で温泉地が駅周辺のため公共交通機関を利用してお越しのお客様が多くいます。その方々の観光地への移動手段に手頃感がない。
25. 京都、大阪などのインバウンド人気都市とのアクセス強化が必要。観光事業者が協力してのバス運行も検討中。

【ライドシェア等多様なサービスへの期待】

26. 最寄り駅からの路線バスが減便となり、大変不便な状況となりました。現在は、市から対応いただき、乗り合いタクシーという形で、減便となった時間帯をカバーしていただいているので、助かっています。ただ、この乗り合いタクシーもいつまで続くか分からない状況ですし、インバウンドが増えてくる状況の中、ライドシェアが実施されるとより便利になると思います。
27. 地方温泉地での旅館・ホテルの無料送迎サービスを直ちに辞めて、公共ライドシェアによる有料の送迎サービスに切り替えるべき。
28. 行政と業界で一応対応したようだが、ライドシェアの運転手さえ確保できなかったようだった。タクシー会社も予約（電話）さえとらなくなった。台数が余っている時間帯と圧倒的に足りない時間帯等の工夫の方が先のような気がする。
29. 宿までのアクセスは宿泊者にとって、重要な因子であると思います。一方、地域のタクシー数は年々減少傾向にあり、ライドシェアが広まれば宿泊者にとってプラスに働くと思います。
30. バスもタクシーも値上げ。自社で有料送迎したい。有料送迎にハードルを課すなら、早くマッチングアプリ配車を始めてほしい。地元タクシー会社の利権保護、低いものの安定経営維持に地元は付き合い合われている。社員、パート、子供の駅往復などで動いている車でマッチングアプリ配車を始めてもらって、住民の往来を便利にして欲しい。一時間半に 1 本のバスを雪の中、立って待って

る姿を見て自家用車がかawaiiそうに思い、乗せている現状があります。

31. 私の所在する島では、特に空港から市街地までのアクセスが非常に悪い。空港バスが廃止になり、前日までの予約の公共交通があるとは言え、観光客等は利用し辛い。また、待機タクシーはおらず、完全予約制でタクシーは利用出来るが、それなりの費用がかかる。空港から宿泊施設までのアクセス問題については、宿泊客からのクレームにも繋がり困っている。例えば、宿泊事業者が地域（地方公共団体）から承認を得た場合に、有償で送迎が出来る等、特に過疎の進む地域での対策を検討いただきたい。
32. 鉄道は JR しかなく、特急列車が定期運航している路線の中でもワースト 3 に入る赤字路線になっており、かつ、冬場を中心に強風・荒天時、運休・遅延が多く発生し、地域経済に大きなダメージを与えている。地域内は「路線バス」をどうこうするステージはもはや難しく、今回のテーマでもある「車」の利活用が現状を打開する 1 つのすべかと思います。
33. タクシー会社ですら車を回すことを諦めているような状況で、足が無いのが当たり前となっており、困っている。地域コミュニティにいる定年を迎えた方々がライドシェアで駅からの送迎を仕事にしてみたいという声がある。早く許可をしてほしい。
34. 豪雪地帯に位置している為、冬場の雪見のポテンシャルはあっても走行不安を抱えている顧客やスタッドレスを所持していない首都圏層は多い。安全で快適な二次交通の整備さえあれば、それに乗るだけで雪国観光になると考えられるので是非推進してもらいたい。

以上